

当資料は「インベストラ이프」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

<直販ファンド:2013年2月末の運用状況>

運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク 10年 (年率)	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2013年2月末		2012年 12月末	2013年 2月中
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 158万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 158万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)	基準価額 (円)	推計資金 純流入額 (億円)
さわかみ投信	さわかみファンド	4.53	12.70	-2.70	4.60	20.10	23.61	13.74	4.24	10.90	14.83	68.24	125.09	175.22	2,717.1	13,218	11,601	-14.62
セゾン投信	セゾンバンガード グローバルバランスファンド	0.03	18.83	-0.41	-	-	18.24	21.06	-	-	14.19	72.64	-	-	581.7	9,455	8,776	1.89
ありがとう投信	ありがとうファンド	0.88	16.66	-2.35	-	-	19.27	19.81	-	-	14.31	71.89	-	-	94.9	10,131	9,186	-0.68
セゾン投信	セゾン 資産形成の達人ファンド	0.19	27.39	2.29	-	-	23.94	37.88	-	-	14.87	82.73	-	-	81.3	9,376	8,411	1.44
レオス キャピタルワークス	ひふみ投信	3.98	30.76	-	-	-	22.58	-	-	-	14.71	-	-	-	45.6	16,658	14,697	4.87
鎌倉投信	結い 2101	1.48	11.89	-	-	-	11.20	-	-	-	13.34	-	-	-	29.7	12,137	11,103	2.20
コモンズ投信	コモンズ30ファンド	3.21	22.52	-	-	-	23.24	-	-	-	14.79	-	-	-	25.8	15,151	13,486	0.92
ユニオン投信	ユニオンファンド	-1.22	15.41	-	-	-	19.20	-	-	-	14.30	-	-	-	17.6	15,331	14,045	0.16
クローバー・アセット	浪花おふくろファンド	0.33	12.49	-	-	-	16.43	-	-	-	13.97	-	-	-	7.3	10,095	9,253	-0.45
クローバー・アセット	らくちんファンド	0.61	10.36	-	-	-	14.34	-	-	-	13.72	-	-	-	5.3	9,183	8,520	0.01
クローバー・アセット	かいたくファンド	0.11	12.35	-	-	-	12.94	-	-	-	13.55	-	-	-	4.6	10,286	9,650	-0.26

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2012年2月末に1万円で積み立てを開始し、2013年1月末投資分までの2月末における運用成果とする(2月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。

今回は前回(12月末時点)の基準価額と、2月中の推計資金増減も掲載した。「直販投信」の強みは、購入者の中で積み立て購入をする人の占める比率が高いことで、それは今まででコンスタントな資金流入を続ける大きなエンジンとなってきた。例えばリーマン・ショックとその後の金融危機の時など、ほとんどの投資信託が資金流出に転じた時期にも資金が流入しつづけていた。ところが、運用会社と投資家との距離の近さ、そしてブティックとしての特色でもある「顔の見える運用会社」であることで、既成金融機関の運用会社ではあまり起きない事態を経験する場合もある。

例えば、クローバー・アセットは別々の直販投信会社3社が2010年4月に合併したが、その変化も資金流出を呼ぶことは無かった。ところが、設立時からのメンバーが抜けるなどの事態は、場合によっては資金流出につながる。やや先行して資金流出に転じた「かいたくファンド」を追うように、設立時の「おふくろさん」達が退社して以降、「浪速おふくろファンド」も資金流出を続けている。運用会社の「顔」が変わると、このような影響がでる。「運用哲学」や「投資への思い」を共有しているからこそ、属人的な信頼関係が大きいのだろう。

そして、2013年1月には、設定以来一貫して資金純流入を続けてきた「さわかみファンド」も資金純流出の洗礼を受けた。日本の株式市場の急激な上昇を受けて基準価額が上昇したことで、ガマンして保有していた投資家が解約に動いた「やれやれ売り」という面もあるだろう。「さわかみファンド」は昨年12月、本年1月は、資金流入も順調に増加しており、その結果12月は辛うじて資金純流出は免れていた。ところが、1月は16.2億の資金流入に対して17.8億の資金流出があり、差し引き1.6億円の資金純流出となった。そして2月は、未発表のためイボットソンによる推計であるが、14.6億円と純流出額が増加している。折りしも、1月4日に代表取締役が交代したばかりである。市場の変化のみの影響か、社長交代の影響もあるのか、その相乗効果なのか。ただ、人事面では、かつて同投信を支えた人材の復帰も伝えられており、今後の資金動向が注目される。

「直販投信」の肝は、ブレない運用哲学を投資家に伝え、共有し、体現することにある。

(「投資信託事情」島田・以上は著者の個人的な見解です。)